

事業所名

あんあんclass菊水ルーム

支援プログラム

作成日

2025 年

2 月

27 日

| | | | | | |
|-----------|--|--|---|-------|------------------|
| 法人（事業所）理念 | ”心から安心して我が子を託すことができるかどうか”という観点で、時代のニーズに合わせてアップデートしながら、”安心・安定”のあんあんとして、常に理想的な療育の環境の実現を目指しております。 | | | | |
| 支援方針 | 集団活動を中心に行う事で、社会性の向上を目指します。その集団活動の中で必要なコミュニケーションを獲得できるようになる事を目指し、必要なスキルとして適切な言葉がけやトラブル対応能力を個別活動で必要に応じて取得できるように支援して行きます。学校生活の中でも必要な姿勢を正す場面、話をしている人に意識を向け集中して聞いて居られる様になる為の姿勢保持を目的とした環境づくりや配慮を心がけています。 | | | | |
| 営業時間 | 9 時 | 0 分から | 18 時 | 0 分まで | 送迎実施の有無 あり なし |
| 支 援 内 容 | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 健康状態の維持と改善を目的とした検温を、来所時と帰宅前に毎回行い、併せて口頭でも健康状態の確認をします。基本的な生活スキルが獲得出来る様にトイレ、おやつ、ご飯の時間、来所・退所時の身仕度を適宜声掛けて行きます。勉強の際に出る消しかすや、おやつ・ご飯を食べた際に出る食べこぼしの掃除・テーブル拭きを児童に習慣づけてもらうことで、家庭内や園外でも同様にできることを目的とします連絡ノートや配布物などの提出を習慣づけ、学校でも宿題等の提出忘れがないように意識づけてもらいます。 | | | |
| | 運動・感覚 | 姿勢と運動・動作の向上を目的とした粗大運動を行います。また定期的にスライム作りや小麦粉粘土など様々な感触の物を通じて感覚を刺激していきます。見る・聞く・動くなどの感覚の活用を目的とした、ボディイメージが高められる支援を行い、姿勢保持への意識が高められる様になります。理学療法士が主体となり、歩行姿勢や座位姿勢など適宜声かけていきます。時間間隔の理解を目的としたスケジュールを組み、時間を意識した行動や場面を切り替えられる気持ちを養います。全身鏡を使用してのダンスを集団で行い、自身の身体の動きや音に合わせて身体を動かす感覚を養います。 | | | |
| | 認知・行動 | 始まりの会で日付や天気、人数を質問し、様々な概念の取得を図ります。合わせて、定期的に日直を務める事で、全員の出席を取り自由遊びの設定などを行ってもらい、自発的に必要な情報を収集し、集団の前に立ち自己決定する機会を持って貰います。利用時は毎回、ホワイトボードに自分のポイントカードを貼り、帰宅前に指導員と自身の行動の振り返りをする事で適切な行動の定着を目指します。児童の特性に合わせてカード等を活用して、口頭指示のみではなく視覚からも情報が得られるよう配慮した対応を行っていきます。個別活動中の自由遊びは静かな声で過ごすよう、声の大きさ表など用いて適切な声の大きさを理解してもらいます。 | | | |
| | 言語 コミュニケーション | 個別の担当指導員に対して、児童自らが個別をいつ行うか聞いてもらうなど、自発的に指導員に話しかけてもらう機会を作ります。また、言葉以外でのコミュニケーションツールとして視線やジェスチャー・絵カード、筆談なども交えて、総合的なコミュニケーション能力が高められる様に支援します。自由遊びや集団活動に指導員も一緒に参加し、様々な感情を共有することで児童の自然な言葉を引き出し、気持ちに寄り添えるような支援を心がけます。施設内に園外行事の予定を掲示して、利用日以外の通所希望を児童自らが保護者に伝えられるよう促すことで、家庭内のコミュニケーションの充実を図ります。 | | | |
| | 人間関係 社会性 | 人間関係の形成を目的とした集団活動を、毎回実施します。その中で役割を持つことで、自分の理解と行動の調整が出来る様に支援します。実生活での仲間づくりと集団への参加を促すために、集団参加が苦手な児童には指導員が介入しながら集団活動への参加を支援します。1日の最後に全員で振り返りを行い、各児童の良かった声かけや行動などを、指導員が集団の前で発表することで自己肯定感を高め、他者の良かった行動を模倣する意識をつけ、相対的に適切な行動が引き出せるよう支援します。未就学児と就学児が一緒の空間で過ごすことで、本人より小さい子に対する配慮や多様性の理解など養い、本人より大きい子の姿を見て適切な声かけや行動のお手本にしてもらいます。 | | | |
| 家族支援 | 保護者の気持ちに寄り添い、安心して利用できるように、必要に応じて面談などを行います。連絡ノートを通じて必要な情報の共有をし、可能な時は送迎時にその日の上表を報告します。必要に応じてきょうだいを含む家庭での支援方法を伝えます。 | 移行支援 | ライフステージの切り替えを見据えた本人や家族からの相談に対して行う援助や、デイサービスや学校等それぞれの機関と連携した情報提供や助言を行います。 | | |
| 地域支援・地域連携 | 通園・通学先や併用先、関係機関と連携を取り、本人や家族が安定して通所できる環境を作ります。地域行事や園外活動などで地域の人との交流を図り、地域参加に繋がります。 | 職員の質の向上 | 内部研修や外部研修にて専門性の知識の向上を図ります。毎月のミーティングにて児童のモニタリングを行い、情報の共有を行います。毎日、職員間で1日の振り返りを行い、その日の反省や解決したい事由の話し合いの場を設け、職員の意識の統一に繋がっています。 | | |
| 主な行事等 | 夏祭り、YOSAKOIソーラン祭り、グループ合同運動会、初詣、節分、工場見学、外食体験、買い物体験、雪遊び、水遊び、避難訓練、クッキング、茶話会、親子レク、その他園外活動 | | | | |